

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

第49回関東甲信越静公民館研究大会 第1分科会 公民館運営審議会

「公民館運営審議会の役割と機能を確認し、今後のあり方を考える」

4.5

- 2 トピックス 「いじめ根絶県民の集い」 開催
- 3 視点 生涯学習のすすめ
- 3 ひろば 「糖尿病予備軍」と言われて
- 6 実践記録シリーズ 成人カレッジ「生きがい見つけ隊」
- 7 サークル交流 加茂の民話を語りつぐ(加茂市) / 合唱の喜び(阿賀町)
- 7 素顔拝見 難波 佳子さん(新潟市) / 桜井 圭さん(刈羽村)



「にいつ鉄道まつり」
新潟市新津地区公民館

表紙解説

毎年秋に行われる鉄道のみち「新津」ならではのイベントです。中でもミニSLは大人気！
楽しそう♪



ストップ・ザ・いじめ ~やめよういじめ 許さないいじめ~ いじめ根絶県民の集い」開催

去る9月23日(火)、新潟テルサを会場に「いじめ根絶県民の集い」が開催されました。小・中学生、高校生、保護者、PTA・学校関係者、行政等約千七百名を超える参加者でした。いじめ根絶に対する意識の高まりを感じさせる集会でした。

この集いは、出演するみなさんが舞台を通じて伝える言葉や歌、ダンスなどによるメッセージを通して、人と人がかかわりあって生きることの素晴らしさをいっしょに感じ、いっしょに考えようという趣旨で開催されました。

全体進行は「願いをこめて」「人と人とのかわりを考えよう」「心をひとつに」という三部構成で進められました。

◇願いをこめて◇

上越市立大町小学校、燕市立燕西小学校、新発田市立米倉小学校、県立新潟盲学校、新潟大学の皆さんによる「窓の外には」の合唱が始まりました。

この曲の原詩の作者小森香澄さんは、高校1年の時、いじめに悩み、苦しんだ末に亡くなり

ました。両親が香澄さんの思いを多くの人に伝えたいと願って、香澄さんが9歳の時に書いた詩を基に、この曲のCDを作ったということです。



小学生から大学生までの人々による合唱は素晴らしかったです。また、合唱の間に、香澄さんの母小森美登里さんのメッセージ

がありました。その中で、香澄さんが亡くなる4日ほど前に話していたという「人はやさしさが一番だよ」という言葉が印象的でした。

◇人と人とのかわりを考えよう◇

新潟市立関屋中学校合唱部(19年度全日本合唱コンクール関東支部大会金賞)40名のみならずによる混声合唱2曲。

BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、FMPORTの3

人のアナウンサー、ナビゲーターの皆さんからのメッセージ。

新潟県立新潟中央高校ダンス部(20年度オールジャパニバル校・大学ダンスフェスティバル特別賞「優れた動きのテクニク」受賞)の皆さんによる創作ダンス等5作品。

プロの俳優、声優による朗読劇集団「物語シアター」による朗読劇「龍の子太郎」。



それぞれの努力の成果や経験をもとに発表された作品や言葉の中から、「人とのかわりの大切さ」「他を思いやる優しさ」「生きることの素晴らしさ」などのメッセージが強く伝わってきました。

◇心をひとつに◇

「みんながいっしょに歌いましょう」というテーマで、参加者全員で「Believe」

をいっしょに歌いました。次のような歌詞です。どこかで聞いたことがあるのではないのでしょうか。

たとえばきみが傷ついて
くじけそうになった時は
必ずほくがそばにいて
支えてあげるよその肩を
(以下略)

以上、当日の様子を紹介しました。

「いじめ根絶県民運動」は、平成19年度から県内の各界53の団体からなる「いじめ根絶にいがた県民会議」を中核に啓発活動をすすめてきました。

昨年度からの取組で、社会全体にいじめに対する意識が高まってきていますが、残念ながら今でもいじめに苦しんでいる子どもがいます。いじめは学校だけで解決できる問題ではなく、社会全体で働きかけていく必要があります。

今年度は、「いじめ根絶にいがた県民会議」の取組に加え、趣旨に賛同する企業・団体等の協力を得て、社会全体への意識啓発を一層推進する計画です。県公連も「いじめ根絶にいがた県民会議」の構成団体です。県内各市町村の公民館でも、この趣旨を理解していただき、地域の中でできる「いじめ根絶運動」の取組を事業の中に取り入れていってはいかがでしょうか。

ストップ・ザ・いじめ ~やめよういじめ 許さないいじめ~ いじめ根絶にいがた県民会議



視点

生涯楽習のすすめ

分水公民館利用団体連絡協議会 伊藤 富一



燕市分水公民館、日頃私達が生涯学習として楽しみ、研鑽している拠点です。各人が自発的意志により生涯を通じて歩む生活と、味わう生活が共に潤い豊かになるよう心掛けています。

我々の会は、公民館を利用し、活動している団体が、自然と集まった組織です。年間を通じ、快適な場所を提供していただき、また、職員皆さんの親切な助力をもらいながら活動をしています。そのありがたい謝意として

一、年末清掃
二、防火避難訓練



三、研修会
四、会報発行(会員勧誘を目的として)

を行っております。なにかずつと続けてみたい、それには、たくさん仲間を得ることの大切さを思いまします。一期一会の心で楽習をしている毎日です。

HOT NEWS 掲示板

平成20年度中越地区公民館職員研修会開催

テーマ 地域課題を解決するため住民が求める公民館事業はどう進めればよいか
～住民の声を公民館事業に生かす
グループワークの手法を学ぶ～

平成19年度から引き続いての2年目のグループワーク研修会が開催された。今年度は、3つある中公連事業の地区研究大会と2つの研修会を特徴づけるため、本研修会は50名程度の公民館職員を対象に、実務研修を主な目的とした。

◇期日 平成20年10月3日(金)
◇会場 南魚沼市大和公民館
◇参加者 公民館職員 52名参加
◇日程

9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	15:00	16:00	16:10
受付	開会	オリエンテーション 理論講義	グループワーク(1)	昼食	グループワーク(2)	グループ発表	閉会	

◇研修内容
(1) オリエンテーション 指導者講師による理論指導
清水隆太郎講師のリードで、雰囲気作り、グループ作りの研修を体験
(2) グループワーク1,2 指導者講師による実践指導
グループ内で、個々の課題を出し合って、分類ではなく「集類」の実務研修
(3) グループ発表
8グループから、それぞれのグループ内の協議内容を報告

◇指導者 清水隆太郎 様
2004年大学卒業後、三条市での水害ボランティアに参加。
2006年から「えにし屋」に入り、父義晴とともにまちづくり、教育、福祉、医療、企業のワークショップに携わる。

清水隆太郎講師のリードで、雰囲気づくり、グループづくりの研修を体験しました。

8班からそれぞれグループ内の協議内容を報告をしました。

今春市の「特定健康診査」を受けた。その結果「糖尿病予備軍」の仲間入りとなり、医師からの指導が行われた。

指導内容は、毎日の「食事制限」と「欠かさず運動をする」の二点であった。運動はもともと好きで、毎週月曜、水曜日の二日間は、公民館の卓球クラブで汗を流している。その他に、毎日一万歩を目標にウォーキングを取り入れた。家事等で家中を動き廻つても運動として機能しないのは残念だ。

食生活の改善では、飽食生活にとっぷり漬かり、慣れ親しんだ体に、間食、アルコール類は全面禁止。油の摂取は極力控え、味付けも薄味を心掛ける等、なか



なか厳しい内容だが、健康体を取り戻すためには、実行あるのみ。しかし、折りしも味覚の秋を迎えている。食物は美味しさを増し、野山は色付きはじめた。収穫が終った新米もそろそろ手に入る頃になった。艶やかに炊けた御飯を見て、一杯が二杯になりかねない。その誘惑に迷われないよう、「頑張ろうと思う」「腹八分目に医者いらず」の諺を思い出しながら。

糸魚川市社会教育委員 松澤千香子

「糖尿病予備軍」と言われて



究大会 第1分科会 公民館運営審議会

機能を確認し、今後のあり方を考える

こういった取り組みの中で、委員の中から「ただ審議会に参加して審議をするだけでは駄目で、市民を巻き込んだ学びの場を提供したい」という意見が出て、委員9名で「家庭教育部会」を立ち上げて、委員自ら事業の企画立案を行い、実際に講座を実施した。

・家庭教育指導者研修会

アイスブレイキング、カウンセリング術や冒険教育プロジェクト・アドベンチャーなどの手法の講習を行う。

・家庭教育かるかも隊

加茂の子どもたちに加茂のことを良く知ってもらうため、環境問題を考える加茂ゴミレンジャー、加茂山探検隊、お仕事探検隊、加茂に伝わる昔話の語り部養成講座、絵本の読み聞かせ講座などを行う。

委員が主催者になることにより、参加者などからの周りの意見をより多く聞くことができ、また、公民館事業に対して主催者・当事者の立場で公民館事業に対しての意見を出すことができるのでそれが議論に生きていくことになる。また、事業を通して市民に公民館運営審議会そのもののアピールができる。

平成11年の社会教育法の改正を好機ととらえ、審議会の運営を「画一」から「独自」に切り替えて地域に見合った運営に努めて、「人づくり・まちづくり」に重点的に取り組んで、公民館はもとより加茂市を支える人を育成していくことが重要である。これらのことは公民館の職員が市民要望に応えるべく“職員が変わる・事務局が変わる”が必要であり、そうしないと公民館が本当にコミセン化してしまう。加茂市の公民館は平成12年度に優良公民館を受賞したが、それを励みにして市民に喜ばれる公民館であり続けたい。そのためには公民館職員だけではできないので、審議会委員と両輪となってこれからも邁進していきたい。



3 助言者のまとめ

(新潟大学大学院現代社会文化研究科 雲尾 周 准教授)

世間の多くの市民は公民館を知らないので、公民館が声高に色々言っても通じないところがあ

る。そのうえ、公民館利用者の中でも公民館運営審議会というものを知らない人が多いために、市民の声が公運審に届きにくいという現状がある。よって公運審制度そのものをより一層利用者に認知させる必要がある。社会教育法の改正により公民館の事業評価が義務付けられたわけだが、公民館自身が事業の自己点検・自己評価を行い、その評価結果に対し関係者評価としての評価を担うのが今後の公運審の重要な役割と言える。

評価をする場合、インプット評価（事業の予算などの投入した資源）とアウトプット評価（事業の参加者数などの結果の量的評価）は数字で表しやすく、公民館の自己評価の中で簡単に出すことができるが、アウトプットの先のアウトカム評価（受講後にどれだけサークルが誕生したか等の結果の質的提示）が重要であり、このアウトカム評価ができるのは公民館活動に関わっている公運審であり、また正しく評価するためには事業の初めから終わりまで定期的に見ていく姿勢が必要である。このアウトカムが評価されることによって公民館職員が励み、公民館職員が地域を変えているんだ、という実感につながり、地域課題や生活課題を住民主体の学びの中で学習し解決していくという公民館本来の役割に戻っていくわけである。コミセン化の問題の話も出たが、こういうところがコミセンと公民館の大きく違うところであり、本来の公民館の役割を意識して評価をしていくことが重要であろう。

審議会委員の研修で、色々な公民館を見ることも必要だが、やはり自分の公運審が一番だ、という公運審であってほしい。先進事例の模倣ということだけでは対処できないことが多く、それよりもその公民館にとって最もふさわしい解「最適解」をその公民館自身が考えていくしかないし、その最適解は常に変わり続けていくので、常に最適解を求める活動を続けていくことが必要なことである。

評価と課題

参加者の大半が公民館運営審議会委員であったこともあり、各地域での課題・現状などについての活発な意見が述べられ、今後の公民館のあり方、公民館職員の意識改革、公民館運営審議会の活性化などの方向性を十分討議できた分科会であったと考えます。

特集



加茂市公民館
館長 佐藤 俊夫

1 はじめに

「公民館の限りない可能性を求めて」をテーマに第49回関東甲信越静公民館研究大会が1000名を超える参加者のもとで、千葉県千葉市で開かれ、第1分科会には千葉県を中心に9都県から76名の参加者でした。

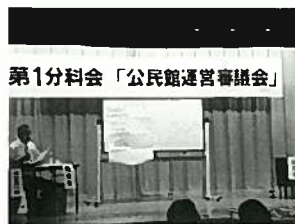
2 発表内容

加茂市は、人口は3万1千弱、世帯数1万世帯強で、規模としては県内で2番目に小さい市であり、「北越の小京都」といわれ町中を加茂川が流れ、三方を山に囲まれている。

加茂は木工の町であり、特に「桐たんす」は1976年に国の伝統的工芸品に指定され、全国生産量の70%を占める日本一の産地である。信濃川流域では、コシヒカリや洋なし（ルレクチエ）の栽培も盛んである。加茂山公園は市の花、県の木である「ユキツバキ」の群生地であり、多数の観光客が訪れている。

加茂市には本館1館と分館4館があり、分館には分館推進員がおり事業の計画や実施について携わっている。公民館運営審議会は定数20名で任期は1期2年である。男性11名、女性9名で、年齢は40代から70代まで様々である。委員の選出区分は、学校や青少年育成団体等の団体から6名、公民館利用者代表3名、各分館からの代表5名、大学や市議会からの学識経験者6名となっている。

現在の公民館の館長となって10年経つが、公民館がどこにあるかわからないという市民がいることに大変ショックを受けた。また、公民館の館長は代々定年間近の行政職員が赴任することが多かったので、1～2年では公民館をつかむことはなかなかできなかった、という経緯があり、公民館職員は一生懸命やっているが、対市民・対外的に評価をされていなかった。各種大会の分科会等に参加して、そこで公運審委員の意見を聞くと、活躍の場



第49回関東甲信越静公民館研

「公民館運営審議会」の役割と

がない・どうしたらいいかわからない、などの発言を多く聞いた。そのときに、これは公運審委員の問題ではなく事務局の問題であると感じ、公運審の改善・改革に取り組まねばならないと強く思い模索してきた。

多くの公運審は審議会が年2～3回の開催で、1回目に事業計画の報告を受け、2回目に事業実績を聞いて終わりということが多くて、そういったところは審議会が廃止されたり、もしくは社会教育委員といっしょにされてしまうことが多いと思われる。

当公民館においては従来は、委員の選出として各種団体からの選出が多く、公民館活動を知らない代表者が推薦されるために発言が無く、答申書の原案も事務局で作成するという状態であった。そこで委員の選出を団体の代表者とするのではなく、公民館や地域で活動している方を選出し、そこから審議会の改革に取り組んだ。また、審議会の運営について、従来は1回目に会議、2回目、3回目に答申書の審議、4回目に施設の視察、最後は社会教育委員との合同研修会という同じ流れを繰り返してマンネリ化を招いており、審議会の内容を改善していくべきとの考えに至り、審議会の中味について改善の取り組みをしたわけである。

まずは、審議会に「翌年度の公民館の運営方針と事業計画について」を諮問する。その際に緊急な課題が出た時は、ワークショップ方式でとことん議論をして、それを答申に活かすといった方法を取り入れた。そして、審議会委員独自の研修会も開催し、社会教育委員や民生委員などにも呼びかけて参加していただいている。また、新潟県の県公連から配られた「公民館運営審議会委員の手引き」に基づき研修会をした。さらに毎年、優良公民館を訪問して公運審委員の方と懇談する機会を設けている。



審議会の開催時間を委員の集まりやすい午後3時からの開催とすることにより出席率が上がった。審議会には、館長と職員全員が出席し、委員の生の声を聞くことでそれを活かすようにしている。市内4分館の分館長・主事も出席し地域の課題等を発言している。

実践記録 シリーズ 128

成人カレッジ「生きがい見つけ隊」

村上市朝日地区公民館 社会教育指導員 本間 香織

「生きがい見つけ隊」とは

趣味を見つけるキッカケとして参加された方が興味を持ち、後々生き甲斐へと発展されることを目的とし、平成13年度より開催され年間6回前後の講座を開いています。

講座の内容は、ハイキング、エアロビ、太極拳、ヨガ、朝日地区の名所巡り、古民家見学、美容、アロマ、料理（地域の伝統食、漬け物、パン、ケーキ）、絵手紙、手芸、フラワーアレンジメントなど、ジャンルにとらわれず数多くの講座を開催しています。

平成19年度の内容（一部）

6月 ★笹平城跡トレッキング

笹平城は大場沢ゆかりの武将・鮎川清長の持城。その城跡まで、講師の説明を聞きながら登山道をトレッキング。笹平城跡地でお弁当。ちょっとした運動プラス歴史の勉強と一石二鳥の講座。



7月 ★男の料理～カレーを極める～



手軽に作れて、夏に美味しいカレー作り。でも、ルーから作るワンランク上の味を。女性の方、ご夫婦での参加もあり和気あいあい。

9月 ★正しい発声で歌いませんか？

正しい発声で歌う為のボイストレーニング。口の開け方から、声の出し方、歌い方まで。終了時には、歌手気分（^o^）



11月 ★つぶつぶパワーをいただこう！

健康食として注目されている雑穀についてのお話を聞き、調理・試食をする、雑穀料理講座。



「予想していたより美味しい」と参加者皆さん大満足。

2月 ★日本茶を楽しむ



入れ方を工夫して、日本茶をさらに美味しく！

日本茶インストラクターの資格を持つプロが伝授。

同じ茶葉でも、

お湯の温度、茶碗に注ぐまでの時間によって味の違いが歴然。好みのお茶の入れ方を見付けたようです。

今後の活動

毎年度参加いただいた方にアンケートを取り、計画を立てますが、「○○○を今年もしてほしい。」や、「講座を連続して、シリーズ化してほしい。」などの要望も多く、趣味を見つけるキッカケ作りの講座では、物足りなく感じている方もいます。

今後は、ひとつのテーマについて、関連性を持たせた講座や、シリーズ化も視野に入れつつ、「生きがい見つけ隊」に参加されたことのない方にも、気軽に参加していただける企画を考えています。

また、「生きがい見つけ隊」に参加された方々の輪が広がり、自主グループ的な活動へと発展して行かれることを願っています。

加茂の民話を語りついで

ほいねの会

「ほいねの会」は、平成十九年度、公民館「昔話語り部養成講座」を経て発足したサークルです。現在、会員数は十五名、月一回の勉強会と依頼に応じての語り部活動を行っています。加茂の方言を大切にしながら、「加茂の子ども達に伝えていきたい」そんな思いで学んでいる私達を公民館のみなさんが暖かく応援してくださいるので、活動の場が広がり、大変ありがたいと思っています。



これまでに、公民館事業の「真夏の昔話の会」など市内で数多く活動させていただきました。これからもたくさん昔話を子ども達に語り継いでいきたいと思っています。

加茂市・ほいねの会
代表 古川 裕美子 記



合唱の喜び

阿賀野川混声合唱団

私達は小さな町の混声合唱団で、合唱組曲阿賀野川を歌い継ぐ為に旧三川村で設立され十七年になりました。団員は二十名で年齢層も広く週一回忙しい合間に合唱の楽しさと幸せを味わっています。



六合唱団合同 阿賀野川を歌う会

近隣の合唱団と「里の秋ふれあいコンサート」、中学生と共に「阿賀野川を歌い継ぐ会」に参加。その他様々な活動を楽しんでいます。

今年新潟県北部の八・二八水害から四十年が過ぎ、阿賀野川流域の六合唱団の有志で亡くなられた方々に祈りを込めて八月三十一日に演奏会をしました。今迄味わった事のない充実感と、合唱の輪が大きくなり心ひとつに大勢で歌えた喜びは何よりの宝物となりました。

阿賀町・阿賀野川混声合唱団

榎木 ゆり子 記

今年4月に、高齢介護課から小針青山公民館に異動して来られた難波佳子さんを紹介します。

公民館の仕事は特殊で、慣れるのに時間がかかると聞きますが、彼女は前に教育委員会の仕事をされた経験があり、公民館は初めてとは思えない仕事ぶりに館長も感心することしきりです。また、幼稚園での勤務経験もあることから、乳幼児の扱いがとても上手で、小さなお



新潟市小針青山公民館

主事 難波 佳子さん

素顔 拝見

今年の4月、本人の希望もあり図書館係から文化係への異動で、最近やっと少し慣れてきたようです。主に公民館の教室、文化祭、クリスマスコンサート等の企画、運営を他の2名の職員と頑張っています。桜井さんは旧湯之谷村出身で現在、柏崎にアパートを借りて通勤しています。酒は少ししか飲みませんが、趣味のギターを片手にB'zの歌



刈羽村生涯学習振興公社文化振興係

主事 桜井 圭さん

を歌う好青年です。未だ独身ですので興味のある女性がいましたら「ラピカ」迄ご一報下さい。これから忙しくなりますが体に気を付けて頑張って下さい。大いに期待しています。

記事を御覧の皆様、是非近くに来ましたら「ラピカ」にお寄り下さい。職員一同お待ちしております。

(刈羽村公民館長 鬼山 正生 記)

子さんと接する機会の多い公民館にはまさにピッタリ!!の人材ですし、乳・幼児家庭教育学級の担当者としてもうってつけの存在で、異動から半年ですでに「小針青山公民館になくはならない人」となっています。若い難波さんから良い刺激をたくさん貰って、少し細胞を活性化させたい…と秘かに目論んでいるこの頃です。

(新潟市小針青山公民館 山田ますみ 記)

event information

2008 秋の特別展 コロボックル物語の世界

— 自然からのメッセージ —

児童文学作品「だれも知らない小さな国」誕生からまもなく50年、
長い間たくさんの人に愛され続けているコロボックル物語。
あなたもコロボックルの世界をのぞいてみませんか？



コロボックルとは・・・
コロボックルは自然に暮らしていた小さな
小さな人々、それは約3センチメートルに
すぎない。この小さな国に暮らす、生
きているのは日本産で唯一の昆虫で、ふ
つり人(はらわら)……144年こ
えよん。
この物語は読んでいただけますが、用心して、
本書に描かれている人間の顔にしかるを
あらいとせん。

11月1日(土)～11月24日(月・祝)

オープニングイベント

11月16日(土) 11:00～18:00
「えんげんのもり」
コロボックルおはなしひろば

NIIGATA SCIENCE MUSEUM
新潟県立自然科学館

恵贈資料紹介

富山県公民館連合会



富山県公民館連合会では、市町村合併の影響に伴い、組織改正や事業内容等の見直しを図るとともに、公民館関係者の意識改革と資質の向上を喫緊の課題ととらえ、これからの公民館活動のあり方を考える初任者研修資料として「公民館ガイドブック」を発行した。26のコラムなど、多様な事例等を織り交ぜ、「読みやすく、

- 分かりやすく、活用しやすい」内容に編集されている。
- 第一章 公民館のあれこれ
- 1 公民館の誕生
 - 2 公民館の特徴と役割
 - 3 公民館の現状
 - 4 公民館職員の名称と職務
 - 5 公民館の施設・設備と予算
 - 6 地域の実態の把握
- 第二章 公民館事業
- 1 公民館の目的
 - 2 地域課題と住民のニーズ
 - 3 公民館事業
 - 4 事業実施までの手順
 - 5 研修と学習方法
 - 6 公民館の広報戦略
- 第三章 公民館運営と公民館運営審議会
- 1 公民館の役割
 - 2 自助・共助・公助
 - 3 災害発生への備え
 - 4 災害の学習
 - 5 備蓄品・防災用品
 - 6 連携体制
 - 7 災害マニュアルの作成
 - 8 訓練の実施
 - 9 災害発生
- 第四章 学校関係機関との連携・協力
- 1 学校との連携
 - 2 社会教育関係団体等との連携・協力
 - 3 企業との連携
 - 4 公民館のネットワーク
- 資料1・2、参考資料

純国産クリーンエネルギー

ダムは、CO₂を排出しないクリーンな電力を供給するとともに、都市住民の生活や農業・産業活動などに安定した水の供給を行い、また、集中豪雨等の災害時には住民の生命・財産を守る機能を果たすなど、国民の安心・安全にも役立っています。

新潟県ダム・発電関係市町村協議会
会長(津南町長) 小林 三喜男

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

B5判・126頁。一部千円。
残り部数はわずか。
購入希望の場合は、市町村単位で
まとめて申し込み願います。
[問合せ先]
〒930-0096
富山市舟橋北町七一
富山県教育文化会館内
富山県公民館連合会事務局
電話・FAX
076-444-5777

あ と が き
上越市立公民館のご協力によ
り、第59回新潟県公民館大会
の記録集の編集・校正作業が進ん
でいます。
講演や事例発表の内容を少して
も分かり易くお伝えするため、可
能な限り写真や資料を入れるよう
努力しています。
(相澤 記)